

2月6日（火）に雪が降りました。

登校を迎えるために門の前に立っていると、いつもより、出足が早いです。

「校庭に雪積もっている？」雪にワクワクしている様子です。

多くの子が、来る道で作ったのでしょう。小さい雪の玉を持っています。

ミニ雪ダルマを持っている子もいます。門の近くに切り株があり、「あの切り株に飾ったら？」と声をかけると嬉しそうに「はい。」との声。

「私のチューリップに雪が積もっている。とってあげよう。」自分の植木鉢を大切にしている一年生の声。

大きな雪のかたまりを持っている子もいます。「これはね。白パイ。ここがタイヤで、ここがハンドルだよ。」素晴らしいです。雪で見立て遊びをしているのです。想像力に感動していたら、「あっ。壊れた。」「う～ん。でも、これ、タイタニックみたい。」柔軟な発想に感動しました。

1時間目には、学校の前にある公園に出かけ、雪遊びをした学年もありました。

雪の少ない千葉市では、雪は特別な存在です。私自身、大雪が降った日に弟と一緒に作った雪ダルマ、大学時代に誰の足跡もついていない雪上に友人3人と寝転がって作った人型が浮かんできます。これらの経験は、ふとした時に思い浮かび、心を豊かにしてくれます。

7時から、児童の登校の安全を考え、通学路に雪かきをした先生方も多くいます。

児童の安全、そして子供たちの感じる心を大切にしていきたいと感じた朝でした。

